

2026年1月29日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 吉田文紀
(コード番号: 4582)
問合せ先 IR室 (TEL.03-5472-1125)

多発性硬化症治療のIV BCVによる新たなアプローチ
米国NIHとの共同研究成果
Journal of Clinical Investigation誌に発表

シンバイオ製薬株式会社（以下、シンバイオ）は、米国国立衛生研究所（NIH）内の研究機関である米国国立神経疾患・脳卒中研究所（NINDS）との間で多発性硬化症の治療について、IV BCV（注射剤プリンシドホビル）の可能性について共同研究をしてまいりましたが、その研究の成果が権威ある学術誌「Journal of Clinical Investigation」に論文として公表されたことをお知らせします。（J Clin Invest. 2025 Nov 25:e195764. doi: 10.1172/JCI195764）

多発性硬化症は、体内のリンパ球細胞に潜伏するEBウイルスが再活性化することがその主たる発症原因のひとつです。本共同研究によりIV BCV（注射剤プリンシドホビル）が、ごく微量の投与でEBウイルスの活性を顕著に抑制することを発見しました。また、すでに多発性硬化症患者由来の細胞を用いた実験により、BCVがEBウイルス陽性のB細胞リンパ球細胞のみを選択して阻害するということを確認しており、EBウイルス感染陽性の多発性硬化症の患者のみを選択的に治療することが可能となります。今後、患者の血液を検査することにより、IV BCVによる治療効果が期待できる患者を事前に判別したり、治療効果を短期間で測定することができるようになります。これにより、一人ひとりの多発性硬化症の患者に合わせた、より効果的な治療法の開発につなげることが期待されます。

代表取締役社長兼CEO吉田文紀のコメントです。「NIHとの共同研究の成果はEBウイルスが潜伏するリンパ球のみを標的とすることにより、従来のB細胞リンパ球の除去を目的とした治療方法とは異なる画期的な治療法の開発につながる可能性を示唆しています。引き続き、NIH/NINDSのチームと共に多発性硬化症治療に向け新たなアプローチを追求してまいります。」

以上

注記

1. EB ウィルスと多発性硬化症の関連性

ハーバード大学の研究チームと米国軍医保健科学大学との連携で大規模な後追い調査を実施し、2022年1月、世界的に権威のある科学雑誌『Science』にて多発性硬化症の発症にEB ウィルスに感染することが強く関連しているという結果を発表しました。さらに同月、スタンフォード大学のチームが、もう一つの権威ある科学雑誌『Nature』で、病気が起こる詳しい仕組みを分子学的に解明しました。ACTRIMS および ECTRIMS 等の多発性硬化症の学会においても、EB ウィルス感染症と多発性硬化症の関係は認知されております。従来の治療方法は、多発性硬化症の患者のB細胞リンパ球をすべて除去することにより症状を改善することに主眼が置かれてきましたが、この度の米国国立衛生研究所との共同研究成果により、BCV を用いることによって、EB ウィルスに感染したB細胞リンパ球のみを除去することができ、従来の治療方法に比べて患者の免疫系への負担を軽減することができるものと考えています。

2. 米国国立衛生研究所・国立神経疾患・脳卒中研究所 (NIH/NINDS) との共同研究開発契約 (CRADA)

シンバイオは、2023年3月に米国国立衛生研究所 (NIH) 内の国立神経疾患・脳卒中研究所 (NINDS) と共同研究開発契約 (CRADA) を締結し、EB ウィルスを直接標的とした新規治療法の開発に向けた共同研究を開始しました。今回報告した多発性硬化症の研究はこのCRADAのもとで行われており、臨床開発へつなげることを目指しています。

3. Journal of Clinical Investigation

本誌はアメリカ臨床研究学会が発行する、世界で最も権威ある医学雑誌の一つです。1924年の創刊から100年近い歴史を誇り、その論文は世界の医学研究に大きな影響を与えています (インパクトファクター: 13.6)。掲載される論文はすべて、その分野の第一線の専門家による厳しい審査を通過しており、常に医学研究の「最先端」と「基準」を示すものとして、世界中から高い信頼を得ています。

4. 3本の治療領域を柱としたBCVの事業戦略

シンバイオ製薬は2019年9月にBCVのグローバルライセンスを取得して以来、そのポテンシャルを最大限に引き出すことを目的に、世界最高水準の研究機関とともに3つの治療領域で共同研究を進めてきました。現在は、①造血幹細胞移植後のウィルス感染症、②血液がん・固形がん、③脳神経変性疾患の3領域を事業の柱として、経営資源を重点配分し開発を加速しています。特に③では、多発性硬化症や進行性多巣性白質脳症 (PML) を含む可能性を見据えた研究・開発を検討しております。これらの取り組みを通じ、グローバルな事業展開によりBCVの事業価値の最大化を目指します。